

一定の負担で自宅前収集を

負担金設定はしていない



もり はるし 議員

ゴミ出しが困難な住民の増加は確実だ。その問題に対応する仕組みづくりとして、町が集落、NPO等地域の支援団体への補助金を支給する方法により、現在行われている地域の方々の支え合いを支援するコミュニティ支援型の制度化に取り組みことを検討している。内容として、家庭ゴミは玄関先から、粗大ゴミは家の中から収集場へと考えている。補助金の額も積算してないので具体的には言えないが、今のところ支援対象世帯への負担金徴収の設定はしていない。

シー利用への補助金制度をとの声がある。例えば四万十市の福祉タクシーチケットは年間1万3200円(400円×33枚)を支給している。一定の期間を決め、町でもこのような取り組みが必要と思う。タクシー会社のない佐賀地域は通院、買物に四万十町の会社を利用可能な制度を作れば住民間の不公平感が生じることはなくなると思う。自主返納者へのタクシーチケット導入をすべきではないか。

大西町長

自主返納の高齢者の方への補助制度として、近隣市町村では一生涯使用できる運転経歴証明書の発行手数料千円を助成しており、町も平成29年度からの助成を検討している。証明書の提示によりくろしお鉄道窪川く宿毛間の普通運賃、西南交通の路線運賃(高速バス除く)は約半額、町内のタクシー事業者は既に10%の割引を実施している。少額の助成だが本人、周りの安全を考えれば住民の方は受け入れ

てくれると思う。買い物、通院に少々不便な方の移動手段の確保にはデマンドバス化で、バス停までへの移動が難儀な方は自宅前まで行くとか、その取り組みとして全線の低廉化、あつたかふれあいセンターを核とした新たな福祉ネットワーク構想で町内全域はカバーできるように地域

【その他の質問】

問題が解消されると思う。一日も早い組織化を進めるべきではないか。

藤本住民課長

今後、高齢化が進むにつれ

起こっていることで本人、親族による運転免許証の返納が増えたと聞く。返納された高齢の独り暮らしの方よりタク

※町道管理について
※排水路について



高齢者が使用する軽トラック

2016.12.17